

豊能広域こども急病センター

2007.12.4 vol.3

小児救急医療をめぐって

子供の急な病気について

市立池田病院副院長(小児科医)
牧 一郎

子供さんの病気は、お母さんにとって大きな心配事だと思います。それに応えるように私たちは、日々努力して診療していますが、小児科医にも診療所の医師、勤務医などいろいろな担当があり、それぞれに得意な分野があります。それに加えて、夜間や休日のための急病診療所があります。できればお母さんもそれらを上手に使い分けて利用していただければと思います。

受診の基本は、家の近くで行きやすい先生をかかりつけ医に決めて、その先生を中心に診療してもらうことです。

通常、病気の診療だけでなく、発育相談や予防接種もしていただけます。普段困った症状が出たときは、まずかかりつけ医を受診しましょう。かかりつけ医が入院や専門医療が必要と判断したら、病院に紹介してもらえます。夜間や休日に急な病気が起こったら、急病診療所で応急の治療をしてもらい、翌日かかりつけ医を受診しましょう。止まらない痙攣や意識のおかしい時などは、救急車を呼んで急いで治療を受けてください。



患者さんのお話.....

実際に、当科を救急受診された患者さんで見てください。夕方に救急外来を受診された2歳の子供さんの診療の様子です。お母さんは.....

3週間前からせきが続いていましたが、元気なので様子を見ていました。鼻水が出たので、一昨日にかかりつけの先生を受診して風邪薬をもらいました。

薬を飲んだのにゼーゼーして、しんどそうで食欲もなかったので、昨夜に豊能のセンターを受診しました。吸入してもらい、明日、かかりつけ医を受診するように言われました。

今朝も元気がなくて、1回吐きました。すぐ受診したかったんですが、用事があって遅くなりました。

.....とお話されました。

これを読まれて皆さんどう思われるでしょうか？私は、お母さんも考えていただきたいと思い少しお話をしました。

咳についていうと、風邪の場合、多くは2週間以内に症状がよくなります。2週間を超えたら他の原因がないか調べることが必要です。元気に見えてもかかりつけ医に相談して欲しいと思います。

夜間や休日にしんどくて心配な時は、急病診療所を受診してください。吸入がいた状態だったので、このお母さんの判断はよかったですと思います。急病診療所を受診した翌日は、早いめにかかりつけの先生の診察を受けてください。その時点での必要な治療を考えていただきます。入院や詳しい検査が必要なら病院を紹介してもらってください。



このときにそれまでの診察の所見、検査結果や治療内容は大切なことが多いので、紹介状を書いてもらって受診して欲しいと思います。また、子供さんの症状が悪いときは、できるだけ時間内(午前中)に受診して下さい。夕方になると診療所も病院も検査などが十分出来なくなります。

このお子さんについて、以上のようなことをお話しましたが、医療機関の上手な利用の仕方について、このお母さんはよく分かってくださいました。

皆さんも回りにある医療資源(医療機関など)を上手に利用していただければと思います。



Q & A

患者さんからいただいたご質問等に対する回答などを掲載するコーナーです。

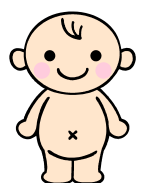
Q お薬はなぜ1日分しかもらえないのですか？

A 当センターはかかりつけ医などが休診日若しくは休診の時間帯のとき、急病になった患者さんの応急・緊急処置を行う診療所となっています。

そのため、お薬をお渡しする日数は、応急・緊急の処置として必要な、当日分若しくは休み明けの分までとなっています。

当センターで受診された後は、かかりつけ医を受診いただきその後の処置及びお薬の処方をご相談いただくようお願いします。

なお、年末年始は、ほとんどの医療機関が休診のため、平成20年の年末年始は休み明けの最大1月5日の朝の分まで処方をするにしています。



かぜの予防 人混みを避けること...

池田市医師会 中務 光人

「体が冷えてかぜをひいた」等と言われます。確かに、インフルエンザのように寒い環境でかかりやすいかぜもあり「体が冷えるとかぜにかかりやすい」ということは間違いのないと思います。

しかし、かぜの原因の多くはウイルスで、寒いというだけでかぜをひくものでは決してありません。このことは、今までの調査・実験で証明されています。

ですから、かぜの予防で最も重要な事は、「体を冷やさない」ではなく、「人混みを避ける」ことです。

梅田などで、まだ生後半年も満たない赤ちゃんを連れておられるご家族を時々見かけますが、これは非常によくないことです。

小さな赤ちゃんは、胎児期にお母さんからもらった免疫力が残っているため、かぜにかかる頻度は低いのですが、自分自身の免疫力が弱いため重症になりやすいものです。

赤ちゃんを連れてスーパーに出かけたりするのは、仕方のないことですが、「きずのないきれいな大根を捜すことよりも、早く買い物を済ませて、赤ちゃんにかぜをひかせないようにすること」の方がずっと大切だと思います。

とは言っても、もう少し大きな子どもさんが「友達を遊ぶ事」は、かぜをもらうことはあっても、重要であることは、言うまでもありません。



11月から春にかけての流行する感染症 RSウイルス

大阪大学大学院医学系研究科 山岸 義晃

冬の子どものかぜというと、皆さん何を思い浮かべるのでしょうか。多くの方々はインフルエンザと答えるかもしれませんが、入院する患者さんでは、実はRSウイルスが原因になる割合が結構多いのです。

RSウイルスは他の多くのウイルスのかぜと違い、お母さんからの免疫をもらっているはずの生後すぐの赤ちゃんも感染します。また一度かかっただけでは十分な免疫はできず、一生のあいだ何度でも感染します。このこともあり、RSウイルスは2歳までにほとんどの子どもさんがかかります。11月頃から春にかけて毎年はやります。

多くのこどもさんは、鼻水や咳が目立つかぜになるくらいですが、中には細気管支炎になる乳幼児もいます。咳、鼻水などのかぜの症状が2～3日続いたあと、咳がだんだん強くなってきて、ゼーゼーしたり、息苦しそうになります。呼吸困難が強い場合は、入院して酸素投与などの治療が必要です。その後、数日から一週間程度で回復してきます。

小学生ぐらいでも、もともと喘息がある場合は、RSウイルスの感染で発作をおこすこともあります。他にも、気管支炎・肺炎・無呼吸などの原因になります。

乳幼児のRSウイルス感染予防は、最近までできませんでした。現在は、非常に高価な薬を使いますが、冬場に数回の筋肉注射をすることで、入院を減らせるようになりました。重症の心臓病の子どもさんや、肺に障害が残ってしまった未熟児など、RSウイルスにかかると重症になる可能性のある場合には保険適用が認められています。

美しい子育て 子を思う親の心...

大阪大学医学部附属病院周産期母子医療センター
和田 和子

この世で一番美しく、尊く、そして永遠に変わらぬものはなんですか？と問われた時、ひとはなんと答えるのでしょうか。

私は迷わず“子を思う親の心”と答えます。小児科医である私は、慌ただしい日々の中にも、この“子を思う親の心”に触れることができ、おまけに感謝の言葉すら受け取ることもあり、そんな時は疲れも眠気も一瞬にして癒されます。

医学生の実習を担当する際に、小児科勧誘の意味もこめて、この思いを話すこともあるのですが、ある学生が苦笑しますので、なぜかと尋ねますと、“先生、モンスターペアレントって知っています？親心って美しいかもしれせんけど、一步間違うと醜くもありますよ。”と教えてくれました。

モンスターペアレントとは、主に学校の教師に理不尽な要求をする親のことだそうです。うちの子にはアレルギーがあるので、給食は全員、特別食にして欲しい、といった類の要求が本当にあるのだそうです。

子育ては楽しさと大変さのぶれの作業です。時には自分自身やまわりのことを見失うことすらあるでしょう。でも、子育てのめざす所はなんでしょうか。それは親の手が離れた後、人並みの自立した大人になってもらうこと、それがなければ子育ては空しいものになるのではないのでしょうか。

私自身も二人の“困ったさん”の子育て真っ最中です。

本当に思うようにならないとき、投げ出したくもなり、また他人のせいにしたくもなります。精一杯の愛情を注いでいるつもりですが、これが美しさであり続けるには、この子が私のことをどんなふうに見ている、どんな大人になるかしら、そんなことをほんの少し考えてみるといいのかなあとこの頃思うようになりました。

子育てがんばっている皆さん...うちの子育てって美しいかな...こんな余裕が持てるといいですね。

